

---

# 激戦！？パンツ戦争！

えんや

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

激戦！？パンツ戦争！

### 【Nコード】

N6790Y

### 【作者名】

えんや

### 【あらすじ】

ある日、家に帰ると兄が自分のパンツをくわえて玄関に立っていた…。そんな兄から告げられたパンツ戦争。果たして自分のを守り抜くことができるのか！？

## 第1章 セカイノハジマリ

その日、私が学校から帰ってくると

兄が私のパンツを啜えて玄関に立っていた・・・。

私の名前は鏡<sup>かがみ</sup> 麻美<sup>あさみ</sup>高校1年生。

今年の4月に市内の虹彩<sup>にじさい</sup>学校に入学。

入学志願の理由は、単に学校と家の距離が近くだったから。  
学校と自宅の距離はだいたい1kmぐらい。

家庭関係は兄と二人暮らし。

両親は私が幼いころにどこかへ旅立ってしまった。

詳しい理由は兄にもわからないらしい。

学校生活は概ね<sup>おおむね</sup>良好。

友達も何人かできた。

そんな私が学校から自宅へ帰ってくると

文字通り、兄が私のパンツを啜えて玄関に立っていた。

「ほかへり。」

「え!？」

私は急な出来事に驚くことしかできなかった。

兄が自分のパンツを加えている姿なんて誰が想像できるだろうか。  
私は慌てて玄関の戸を閉め、深呼吸した。イカくさい臭いが鼻を襲う。

「一応聞くけど、何をしているの？お兄ちゃん？」

私の質問に兄は口からパンツをはずし、答えた。

「何って、おかえりのあいさつだよ。」

どこの国にそんなあいさつが存在するのだろうか。存在していたとしても認めたくない。

「えーと、とりあえず私のパンツを返して。」

そういつて兄の手から自分のパンツを奪い取る。

兄が返してくれなどといったが無視して二階へあがった。

自分の部屋は二階の一番奥。

私の敵である忌まわしき太陽を打ち消してくれる・・・じゃない。

朝日が苦手なため、この部屋を選んだ。

部屋を空けるとそこは、私のパンツが無数に散らかっていた。

私は光速を凌駕する速さで一階へ降り、兄の胸倉を掴んだ。

「お兄ちゃん、どういふことが説明して！」

兄はエア眼鏡をもちあげ、こう言った。

「簡単に言つとだな、そんなパンティで大丈夫か？一番いいパンティを頼む！のスパイラルが起きて・・・。」

「もう、最悪！！」

私は兄の（一般男性の）弱点部位を大胆に蹴り上げ、また二階へあがった。

部屋の中は先ほどとかわらず自分のパンツが散乱していたが、それらを見無視してベッドの上に腰掛けた。そして自分のベッドのシーツがイカ臭いことに気づく。また兄のところへ行こうとしたが、疲れていたので放って置く事にした。

「ふうー。」

私は大きいため息をつき、天井を見上げた。

一週間分の疲れが吹き飛んだ感じだ。

大体、いつもはこんな感じではないのだ。

兄は静かだし、いつも地下で何かの研究をしている。

パンツを啜っていたのだから今日が初めてだ。

なぜ兄があそこまで性格が一変するのだろう。

そんなことを考えていると部屋の戸が勢いよく開いた。

兄が入ってきたのだ。

「お兄ちゃん、今日ちょっとおかしいよ。何かあったの？」

疑問に思っていたことを素直に聞いた。

まともな返事が返ってくるのは期待してない。

「ふっふっふ、よくぞ聞いてくれた！遂に完成したんだよ、僕の研究が！」

まだ言葉のキャッチボールはできるらしい。

私は近くにあったファッション雑誌を手に取り、開こうとしたが兄に取られた。

「真面目に聞いてくれ、これは日本、世界規模で行われる一種の戦争だ。下手すると 膜に関わる。」

サイテー。最後の一言が余計の域を超えている。

「で、私に何をしろと？」

そういつて読もうとしていたファッション雑誌を取り返し、開こうとしたところでまた取られた。

「パンティ戦争だ！対象とされるのは世界の女子高校一年生。お互いのパンティを取り合い、最後の1人になるまで行われる！」

我慢の限界だった。

「いい加減にしてよ！さつきからなんなの？言ってることが意味わかんないんですけど！」

部屋の中の空気が重くなる。だが兄は、

「ならば理解できるまで説明する。これは現実だ。まあ説明せずとも……」

そこで兄の言葉を打ち消すようにインターホンが鳴った。  
兄は私の手を取ると二階から玄関が見える位置へ行き、兄が指差した方向を見た。

そこには・・・・・・・・一人の女子高校生らしき人がいた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6790y/>

---

激戦！？パンツ戦争！

2011年11月20日18時27分発行